

第3回東海障害歯科臨床研究会

テーマ：「口腔ケア」を見直してみよう！！

日時：平成22年11月14日（日）午後1時から午後4時30分まで

場所：岐阜県多治見市産業文化センター 3F

会費：1,000円（学生無料）

申込み：当ホームページより申込（先着100名）

障害者や要介護高齢者などにおける「口腔ケア」の重要性は言うまでもありませんが、その方法や問題点についてまだまだ検討する必要があります。そこで東海障害者歯科臨床研究会では、それぞれの領域で活躍されている歯科衛生士の方々に「専門的口腔ケア」についてご講演いただき、その問題点や将来の展望などについて考えていただく機会を設けました。つきましては、下記のような話題提供とシンポジウムを企画しましたので、奮ってご参加下さい。

話題提供

座長：玄 景華先生（朝日大学歯学部障害者歯科）

訪問歯科衛生士としての役割

～「多治見口腔ケアグループはねっと」の活動から～

講師：栗木みゆき先生（多治見口腔ケアグループはねっと代表）

演者は平成9年より口腔ケアグループを立ち上げ、ボランティアで口腔ケアを行ってきた。平成12年から地元の歯科医師会の協力があり、訪問歯科衛生士としての活動を開始し、平成22年3月末現在、障害児から高齢者まで、在宅・施設・病院からの口腔ケアの依頼が526件と、地域の中で認知度が上がってきた。この13年間で感じたことは、摂食嚥下訓練を含む専門的口腔ケアは、非常にリスクの高い行為であること、その口腔ケアをどのように安全に提供してい

くか、特に在宅でのリスク管理は・・・。また訪問での口腔ケアは、福祉的な部分が多く、口だけを見ていては評価が得られない。口腔ケアの大切さや訪問歯科衛生士を認知してもらうために、どのように地域社会に根ざしていくか・・・。

「多治見口腔ケアグループはねっと」では、口腔ケア以外にも健康教室や研修会の企画など自主的な活動を行っている。今回は、「はねっと」の今までの設立の経緯や問題点を整理して紹介する。

シンポジウム：口腔ケアを考える

座長：

高木宣雄先生（岐阜県歯科医師会理事、高木歯科医院院長）

松井かおる先生（愛知県心身障害者コロニー中央病院歯科、主任歯科衛生士）

1. 「大学病院障害者歯科での口腔ケア」

講師：青木尚美先生（朝日大学歯学部附属病院歯科衛生部）

朝日大学歯学部附属病院障害者歯科では障害者の歯科治療、口腔衛生指導および摂食・嚥下機能訓練をおもに行っている。そのなかで歯科衛生士の重要な業務のひとつである口腔衛生指導のシステムや症例を紹介するとともに、内科入院患者に対する口腔ケアの取り組みや知的障害者更生施設・特別養護老人ホーム・病院・在宅での訪問診療時の口腔ケアについて紹介する。

2. 「胃ろう（PEG）患者の口腔ケア」

講師：北川有佳里先生（県西部浜松医療センター歯科・口腔外科）

胃ろう(PEG)の合併症予防として、当院では胃ろう造設前後に歯科・口腔外科が介入し口腔診査および口腔ケアを実施している。今回、当科による口腔ケア実施の有無と初期瘻孔感染発症率について調査を行い、胃ろう造設前の口腔ケア実施により瘻孔感染発症率が低下することが確認できたので、その概要について報告する。

3. 「障害児の口腔ケア」

講師：溝口理知子先生（豊田市こども発達センター・歯科）

障がい者の本人歯磨きの自立は障がいや能力の程度、また、教える保護者や介護者の意識や介助の質や量により限界がある。そのために身近な地域の歯科医院で継続的に管理していく必要がある。しかし、障がいの特性から歯科環境への適応が困難なことが多い。そこで低年齢の時期から歯科環境への適応を促し、保護者への支援と本人磨きの能力をより伸ばすことを目的に日々業務している。今回症例を通してその取り組みについて報告する。

4. 「ターミナル患者の口腔ケア」

講師：永田千里先生（藤田保健衛生大学七栗サナトリウム・歯科）

終末期患者が「口から食べる」ということは、患者の QOL の維持・向上に大きく影響する。そのため、口腔内環境を整える意味で口腔ケアの重要性は高い。今回、緩和ケア病棟における当科の取り組みについて紹介し、歯科による終末期での貢献について、皆さんと考えていきたい。

以上